

令和7年度 支援学校 仙台みらい高等学園 の研究概要 ～令和8年1月末現在～

運営委員氏名 (福田 陽香)

| | |
|--------------------------|--|
| 研究テーマ | 生徒が社会で輝くための授業づくり～個別最適な学びと協働的な学びを通して～（3カ年計画） |
| 研究目標 | 生徒の個性と障害を見極め、生徒個々に合った支援を行うことができる。 |
| 研究内容・方法 研究計画等 | <p>【研究内容】</p> <p>本研究は、本校学校教育目標「究める 活かす 輝く」の具現化を図り、生徒一人ひとりが自らの強みを生かして主体的に社会で生きる力を育成することを目的とする。そのため、個別最適な学びと協働的な学びを軸とした授業づくりを進め、生徒の「好き」「得意」を引き出す学習支援の在り方について検証する。あわせて、独自のアセスメントと行動観察を基に、生徒の個性や障害特性を踏まえた授業実践を重ね、個に応じた学習支援の有効性を明らかにする。</p> <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業コンサルテーションにおいて検証する・ケース会議、ケース検討の場において検証 <p>【研究計画】</p> <p><u>前期</u></p> <ul style="list-style-type: none">・授業づくりの基礎研修・アセスメント活用研修・授業コンサルテーション・授業力・個別指導力向上のための研修・ケース会議、ケース検討 <p><u>後期</u></p> <ul style="list-style-type: none">・授業コンサルテーション・授業力・個別指導力向上のための研修・授業実践研修・ケース会議、ケース検討 |
| 研究の概要 ・研究経過 ・研究成果等 | <p>本研究では、生徒一人ひとりの実態を的確に捉え、個別最適な学びの実現に向けた授業づくりを推進するため、授業実践と各種研修を通じた検証を行った。授業観察と授業後のフィードバックを通じた授業コンサルテーションにより、教員が自身の指導の在り方を客観的に捉え、生徒の学習場面での姿を基にした授業改善を図ることができた。また、生徒理解に基づく教材研究や指導案作成を通して、生徒の「好き」「得意」を生かした学習活動を検討する視点が深まり、個別最適な学びの充実につながった。さらに、授業の進め方に関する課題共有やケース検討を重ねることで、指導の方向性について教員間の共通理解が進み、組織的な支援体制の強化が図られた。これらの取組を通して、生徒理解に基づく授業づくりと支援の重要性を再確認するとともに、教員の授業力・支援力の向上が見られた。</p> |

※本様式内で簡潔にまとめてください。なお、項目名や枠の大きさは任意に変更していただいて結構です。